

とうきょう すくわくプログラム活動報告書



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

施設番号	660753
施設名	キッスタウンうきま保育園
施設所在地	北区浮間5-13-1
法人名	社会福祉法人こうほうえん

1. 活動のテーマ

<テーマ>

・音楽遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
・乳児期から手遊びに触れることが多く、子どもたち同士で季節の歌を歌って楽しんでいる日常の様子から、もっと歌遊びの楽しさを伝えたいと感じていた。当法人の研修で職員向けに歌遊びのスペシャリスト荒巻シャケ先生からたくさんの歌遊びを学んだ。研修後に担任がCDを用いて子どもたちと楽しんだところ、振りの覚えが早く、「もう一回!」と言いながら繰り返し楽しむ様子が見られたところから実施に、シャケ先生に来園していただき、直接子どもたちに遊び歌を行ってもらおうということになり、来ていただいた。日常の中で音楽に自然と触れる機会を多く作り、リズム感、情緒、協調性や友だちと一緒に楽しむ喜びを感じてもらいたいという願いから今回のテーマに決定した。

2. 活動スケジュール

- ・11月6日に法人の合同研修が行われる。
⇒研修でCDを購入し、その後の保育の活動の中で適宜使用しながら学んだ遊び歌を子どもたちにおろしていく。
- ・1月27日、2月21日に荒巻シャケ先生を呼んで、幼児向け・乳児向けの内容で歌遊びを行う。
⇒2月21日は保護者の方も参加できるようにすることで、ご家庭でも保育の中で楽しむ姿が共有でき、共通のイメージをもってお子さんの成長の喜び、取り組む姿を伝え合う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- 自分のクラスの中で音楽遊びを行う場合は、自分のクラスの保育室を広いスペースをもうけ、広々と体をうごかせるようにする。
- シャケ先生をお呼びし、数クラスがまざって遊ぶ場合は、遊戯室（ホール）を使用し、音楽に合わせて思いっきり体を動かせるようにする。
CDデッキやスピーカーを用意して、なるべく音が子どもたちにしっかりと届く状態にする。
- バンダナなど、曲の中で使用する素材は人数分準備し、全員が楽しめるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 2歳児は11月以降、毎日のようにシャケ先生の歌あそびに親しみ、繰り返し楽しんでいった。保育の中で遊び歌を組み込み、全員が音に触れ合えるようにする。
- 1月2月にシャケ先生をお呼びする際には、様々なクラスが楽しめるように順に体験をした。
- 実際にシャケ先生から遊び歌を学んだあとは特に、日常に遊びの中で音楽を流したり口ずさんだりし自然と音楽を楽しめるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- クラスにシャケ先生のCDをおろした際は、初めから興味をもって踊ったり身体を動かしたりする子もいるが、他児の様子をうかがい外から見ていただけの子もいた。
毎日のようにクラスの中で気に入った曲を流すようにしたところ、少しずつ消極的だった子もその子なりに身体を動かし身振り手振りをまねるようになった。
- シャケ先生が実際に来園した際には、知っている曲が流れると、ギターの音に合わせて、体を動かしたり歌ったりして終始笑顔で過ごしていた。繰り返し行う遊びの中で、期待に満ちた眼差しでシャケ先生の話に耳を傾けていた。音楽遊びに対して消極的な子も少しずつ笑顔が見られたり保育室に戻ってから保育者に「もう1回!」とリクエストしたりと興味をもったようだった。
講師がいることで、保育者も一緒に子どもたちと同じに気持ちになり音遊びを楽しむことができた。



5. 振り返り

< 振り返りによって得た先生の気づき >

- 日頃の保育にリズム遊びや音遊びを取り入れてきていたので、プロの先生と一緒に遊ぶことで、より興味が広がったように感じる。子どもたちから「今日、シャケ先生の歌やりたいね」という声があったり子どもたち自ら口ずさむことで遊びが展開していっ
することができた。また、音楽あそびに最初からすんなりと溶け込める子と、そうではない子など、様々な子どもの様子があり講師がいることで保育士が客観的に子どもたちの姿を見守ることができたことによって気づくことも多かった。日によって音楽に向き姿が違ったり、子どもによって楽しむポイントが違ったり、繰り返すことで子どもの姿が変わってきたりすることがよくわかったので、今後も年齢や発達に合わせ、楽しい活動を取り入れていきたい。